

平成 25 年度 第 1 回生物多様性推進部会会議録（要旨）

【開催日時】 平成 25 年 11 月 26 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分

【開催場所】 広田山公園及び広田山荘

【出席者】 < 事業者 > NPO 法人子ども環境活動支援協会 事務局長 小川 雅由 氏
西宮商工会議所 常務理事・事務局長 野島 比佐夫 氏
< 専門家 > 兵庫県立大学 教授 服部 保 氏
神戸女学院大学 教授 遠藤 知二 氏
関西学院大学 教授 佐山 浩 氏
西宮自然保護協会 会長 三宅 隆三 氏
< 事務局 > 環境局長 他 9 名

【主な内容】

< 公園内見学 >

< 役員選出 >

< 報告事項 >

1. 西宮市生物多様性地域連携保全活動計画検討委員会の進捗状況について
2. 第 3 回エコツアーの開催結果について
3. コバノミツバツツジの育苗状況について
4. 広田山公園調査分析中間報告について

< 検討事項 >

1. 広田山公園コバノミツバツツジ再生管理計画案について

役員選出

兵庫県立大学 教授 服部 保 氏を部会長に選出

神戸女学院大学 教授 遠藤 知二 氏を副部会長に選出

報告事項

(1) 西宮市生物多様性地域連携保全活動計画検討委員会の進捗状況について（事務局説明）

（質疑応答）

・計画案のタイトルについて、もう少し西宮らしさを出したらよい。都市型里山でイメージが出てこない。西宮という地域性をアピールできるものがないのでは。（委員）

ネーミングは検討したい。（事務局）

・甲山グリーンエリアの中には湿地、水辺などいろんな要素がある。そのつながりを大事にするということ、検討委員会ではどのようにとらえているか。（委員）

甲山グリーンエリアといっても範囲は広い。キャンプ場、農地、個別の活動について、計画が出来れば、つなげた活動としていきたいと考える。資源循環の観点からすると、森林資源を薪に、落ち葉を堆肥にするなどして活用し、人の流れも含め、エリア全体でいろんな活動をつなげていこうという考えがこの計画に入っている。（事務局）

生きものにとって、多様性を保護することでつながりがどういう意味を持っているのかを強調するとよい。（委員）

神呪寺周辺の農地の作業のため、池に水を張った状態を続けてきたので、湿地環境が整ってきた。ヒメタイコウチ、カスミサンショウウオが普通にみられる。農地は作るが、農地周辺部の湿地はそのまま保存し、残せるところは残す。計画では、森林のつながり、点在する水辺環境を活かした生きものつながりを並行して考えていきたい。（委員）

都市山には目標設定がない。まち山も町に残された山として目標設定がない。計画は西宮のやり方で目標設定をし、里山に戻していくイメージがあり、モデルとなる取り組み。ふさわしいタイトル考えて。（委員）

(2) 第3回エコツアーの進捗状況について(事務局説明)

(3) コバノミツバツツジの育苗状況について(事務局説明)

(質疑応答)

・エコツアーは定期的開催しているのか。(委員)

今まではいろんなテーマで開催していたが、今年は生物多様性の戦略にあわせてトピックスを設定して開催している。(事務局)

・苗はいつぐらいに植えられる大きさになるのか。(委員)

はっきり言ってわからない。冬を越してからわかるのではないかと考えている。春にある程度めぼしが付くのかということ。今日、公園内の実生の苗を試しに持って帰って育てようと考えている。(事務局)

ないところに植える苗を早く生産した方が良い。若い苗をとって移植すれば生育は早い。(委員)

(4) 広田山公園調査分析中間報告について(事務局説明)

報告書の分析の目的は、広田山公園の自然環境の特徴把握、データを踏まえて今後の管理方針を策定するというもの。生きものがどういった植生に生息しているのかを区画を分けて分析した。

(質疑応答)

・今回の調査に関して両生類はどのような結果がでているのか。(委員)

由来の検討が必要な生きものとして、モリアオガエルの生息が確認されている。(事務局)

・狐はいないのか。昔は狐と狸がよく出ていたらしい。(委員)

・中間報告となっているが、最終的な報告は3月に出るのか。(委員)

そのとおり。会議の前の中間報告となっている。(事務局)

・コバノミツバツツジの開花時期に調査が入っていないようだ。コバノミツバツツジの開花時期の調査があれば、ハチなどの昆虫相がもっとあがってくるはず。今後の調査においてこの時期の調査が必要だということだりを入れる必要がある。(委員)

・この中で珍しいのは、キョウトアオハナムグリぐらいか。(委員)

それと、モリアオガエル、鳥類では、キビタキ・クロジ、植物については希少な種はいなかった。(事務局)

ムネアカセンチコガネはめずらしい。(委員)

検討事項

(1) 広田山公園コバノミツバツツジ再生管理計画案について(事務局説明)

・計画は、兵庫県の天然記念物コバノミツバツツジを保全するための計画として、公園管理の基本方針を示した簡単なものとなる。また、県に提出する計画であるとともに、今後、地域の方と一緒に公園整備する中で、目指すべき方向を示す指針となっている。

・計画の構成は、「計画策定の背景」、「再生管理の方向性」、「再生管理計画」の3本立てとなっており、「再生管理計画」については6つの項目(「ゾーニング」、「管理方法」、「育苗及び植樹」、「環境学習への利活用」、「地域住民・学校・事業者との連携」、「年間スケジュール」)を掲げている。

・現在、廣田神社が保存会の立ち上げを考えている状況で、来月勉強会を実施する予定としている。その中で、押さえておくべきポイントがあれば、アドバイスをいただきたい。

(質疑応答)

・天然記念物のゾーンは、どこになるのか。(委員)

地番だけの指定となっているが、計画は公園全体の計画として考えている。図の真ん中部分の3分の2ぐらいが天然記念物に指定されている。(事務局)

・公園区域以外のコバノミツバツツジは手を付けられないのか。(委員)

そこは、廣田神社さんに、計画内容を理解していただき、保全を図ってもらう。(事務局)

・81ページ、「環境学習の利活用」のところ、硬い表現なので、もう少しやわらかめの表現の方が良いのでは。(委員)

- 近隣の小学校が、年3回訪れ、環境学習をするしくみがある。学校教育との関係も含めた内容とすればよい。(委員)
- ・年間スケジュールの中の「中高木の伐採」は、1回きりで終わりとなるのでは。(委員)
中高木の伐採は、予算がつく範囲で行う。低木伐採および下草刈りなどは毎年実施していくものとしている。(事務局)
 - ・6ページ、ゾーン案の名称、コバノミツバツツジが中心となるのだから、「アカマツとコバノミツバツツジのゾーン」ではなく、「コバノミツバツツジとアカマツのゾーン」と表現する方が良いのでは。(委員)
 - ・ゾーン名はこの計画書内の話なのか。(委員)
今後、市民の方に親しみを持ってもらうためのキャッチフレーズ的なもの。(事務局)
それなら、保存会の方にネーミングを考えてもらってもよい。保存活動が長続きする要素となる。(委員)
 - ・コバノミツバツツジを復元保存していく際に、園内にコバノミツバツツジ以外の樹木がある経緯など、廣田神社関係者に確認しておく必要があるのでは。(委員)
了解。(事務局)
これは二者択一の話。両方の保全は両立しない。常緑樹をそのままにしておけば、コバノミツバツツジは衰退することになる。このあたり神社側にきっちり伝えておく必要があると思う。神社側の照葉樹林ゾーンは残しておくので問題ない。(委員)
神社の社叢林はある程度、手を入れ、立派な社叢林にしてもらった方がよい。(委員)
社叢林をきちんと手入れすることで、コバノミツバツツジゾーンとの対比がでて面白い景観となるのでは。(委員)
 - ・細かいことだが、ゾーンニング案と中間報告書の鳥類・昆虫の調査範囲の図と少し境界線がずれているようだが。今の植生とは対応しているゾーンニングとなっているか。(委員)
計画案ゾーンニング図は今の植生とは一致している。(事務局)
 - ・ゾーンニング案の図で、コバノミツバツツジの再生を優先するエリアの3のところは夏緑樹林とコバノミツバツツジがあるところとなっているが、ここはコバノミツバツツジを保全するために高木は切ってしまうのか、それとも間引きをする程度なのか。(委員)
コバノミツバツツジを本当に保全しようと思うなら落葉樹は切ってしまった方がよい。高木の落葉樹が高木になっているので、伐採は経費的にも大変だが、長期的にはコバノミツバツツジの低木林にしてもよいところだ。(委員)
まずは、ゾーンニング案図のエリア1、2についてコバノミツバツツジ中心で保全を図り、3はご意見を聞きながら状況を踏まえてコバノミツバツツジを保全していく。(事務局)
3の場所について、昔は、園路沿いにコバノミツバツツジがあったと思う。中にはコバノミツバツツジはそれほどなかったかと思う。(委員)
 - ・市民参加の事例については、川西市の水明台での活動が参考になる。7haの森を管理し、エドヒガンとコバノミツバツツジの群落を保全している。また、小学生の体験学習もたくさん実施されている。(委員)
 - ・保存会と再生管理計画の関係はどんなものなのか。(委員)
保存会の方にも再生管理計画を理解してもらい、同じ方向性で活動をしていこうとしているもの。来月実施する保存会の勉強会は、計画が出来た際に、すぐに活動に入っていくよう開催するもの。(事務局)
 - ・保存会の中には地域の人も入っているのか。(委員)
保存会の役員は廣田神社の関係者、氏子だが、近隣の自治会の方、エココミュニティ会議の方、コミュニティ協会の方、学校関係者にも声をかけ、組織する。昨年度立ち上げようとしていた保存会を計画策定にあわせてつくろうとしている。(事務局)
 - ・川西市の水明台の活動がうまくいっているのは、その組織のトップがすごく優秀だから。保存会には、この再生計画に賛同していただける人を集めていくようにしないと保存会は分裂する。(委員)
 - ・林野庁の交付金申請もできるのでは。(委員)
また調べておく。(事務局)
 - ・あと、西宮市はどうかかわっていくのか。(委員)
ここは公園なので、公園を維持管理するという観点から関わるが、今後、神社の方や地

域の方が主体となり、市が見守るというスタンスでいたい。(事務局)

- ・川西市のケースは市の所有地を市民団体が管理しているという面白いケース。公園内の樹木の管理は、できるだけ早く手を入れれば、後が楽になる。大木の伐採は市が行うことになるが、ちょっとした樹木の手入れなどは市民団体がやると効率が良い。(委員)
- ・保存会と市の打ち合わせは行っていくのか。(委員)

まだ具体的に決まっていないが、どこかで、そのような打ち合わせは定期的にやった方が良く考えてはいる。(事務局)

最終的に保全活動が、通常の公園管理の方針とマッチングできるように、市の考えに基づいた作業をしてもらえるしくみが整うまでは、ある程度、市は関与し、活動を軌道に乗せる必要がある。(委員)

水明台は、市から一銭もお金が出ていないが、トップに立つ人が優秀で、いろいろ調整ができる方なので、様々な活動が展開できている。が、その人がいなくなればどうなるのか少し心配な部分もある。(委員)

水明台の事例は、市からお金はぜんぜん出ていないのか。(事務局)

そこは、公園ではなく、業者が土地を造成した後のへた地の部分を市に譲ったもの。何十年も放置していた状況だったところが、エドヒガンなどの樹木が育つようになり、市民団体が整備している。広田山公園の場合は公園だから、可能な範囲で市が予算をあてながら、基本とした方針に沿った活動を見守る必要があるだろう。(委員)

行政と地域との関わりはいろんなケースがある。今回の広田山公園の場合は行政と地域の保存会の距離感など少し難しい部分がある。保存会の考え方等、意見を聞きながら、行政がどのようなスタンスをとっていくのか、活動が進められる中で考えていきたい。行政依存型の活動の形になると、おきまりの報告書の提出を求めたりする中、距離がはなれていってしまう。慎重に検討していきたい。(事務局)

広田山公園、神社での活動に際しては、住民だけでなく、氏子との関係もあるので、そこをしっかりと押さえる必要がある。(委員)

今後の活動に向け、苗を生産し、今後、園内でコバノミツバツツジが抜けているところに苗を植えていく体制を作っておくこと。そしてできるだけ早く常緑樹を伐採するようにすることが肝心。(委員)

次回推進部会は、来年1月末から2月中旬を予定。後日調整し、連絡する。